

国分寺チェンバークワイア公演

バッハの四季XX

J.S.BACH

ヨハネ受難曲

BWV245

Johannes-Passion

福音史家・テノール 片野 耕喜

イエス 小原 浄二

ソプラノ 隠岐 彩夏

アルト 山下 牧子

バリトン 小林 由樹

管弦楽 国分寺チェンバーバロックアンサンブル

音楽監督 諸岡 範澄

リュート 竹内 太郎

ヴァイオラ・ダ・ガンバ 市瀬 礼子

オルガン・チェンバロ 菅 哲也

合唱 国分寺チェンバークワイア

指揮 市瀬 寿子

2023年 3月16日(木) 18:30 開演 (開場 18:00)

小金井 宮地楽器ホール 大ホール (JR 武蔵小金井駅南口1分)

駅中場がありませんので、公共交通機関または近隣の有料駐車場をご利用ください

全席自由 ¥3,500 (当日券販売あり)

●チケット取扱い: 小金井 宮地楽器ホール2階チケットデスク (窓口のみ)

●ご予約・お問合せ: 国分寺チェンバークワイア 中重 ☎090-4934-0019

主催 ●国分寺チェンバークワイア&女声アンサンブル凛

後援 ●国分寺市音楽連盟





市瀬 寿子 ●指揮 国立音楽大学教育音楽学科卒業。岡本敏明、小山章三 両氏の薫陶を受け、在学中から合唱音楽に関心をよせる。1980年より95年まで淡野弓子「Heinrich Schütz-Chor, Tokyo」のメンバーとして研鑽を積み、演奏活動に参加。1991年に 国分寺チェンバークワイアを結成。94年より、「バッハの四季」シリーズを開始。教会暦によるバッハの連続演奏を目指す。また立教大学新座キャンパス公開講座「市民のためのメサイア連続演奏」の合唱指導などで多くの合唱団と出会い、交流を持つ。日本合唱指揮者協会会員。



片野 幸喜 ●福音史家・テノール 東京学芸大学、東京芸術大学大学院修了、ハンブルク音楽院並びにプレーメン芸術大学古楽科卒(ディプロム取得)。オラトリオを得意とし、ドイツのほか、イギリス、フランス、イタリア、オーストリアなどの多くの都市で演奏。ドイツ歌曲の分野ではシューベルト「冬の旅」「水車屋の娘」、シューマン「詩人の恋」「リーダー・クライス Op.39」などを日独のリサイタルで歌い、CDを制作。またBCJと共演したバッハ「ヨハネ受難曲」(King)とカンタータ集(BIS)、ル・パルラモンド・ミュージックとのブルース/カンタータ集(FranceHM)などの録音がある。指揮者としては「甲府コレギウム・アウレウム」を主宰し、プクステフェーデ「われらがイエスの御体」、福音書記者も兼ねたバッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、さらに「口短調ミサ」、サン・サーサンの「クリスマスオラトリオ」などを演奏している。山梨大学教育学域教授。



小原 浄二 ●イエス 岩手大学卒業後、東京芸術大学に学び首席で卒業。同大学院修了。佐々木正利、伊藤亘行、多田羅迪夫の各氏に師事。芸大バッハカンタータクラブ、バッハ・コレギウム・ジャパン等で活躍後ドイツに留学し、Hクレッチマルク氏に師事。帰国後はリストとして新日フィル、関西フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、紀尾井ソフオニエッタ東京、スウェーデン放送合唱団などとの共演で高い評価を得ている。現在、高知大学教授。高知大学教育学部附属特別支援学校校長。高知バッハカンタータフェライン指揮者。



隠岐 彩夏 ●ソプラノ 岩手大学教育学部卒業。東京藝術大学大学院修了。Rシューマンを研究し博士号取得。文化庁新進芸術家海外研究員としてニューヨークにて研鑽を積み。友愛ドイツ歌曲コンクール第1位、日本音楽コンクール声楽部門第1位、岩谷賞(聴衆賞)、エナガミチ賞受賞。2014年三菱地所賞受賞、2020年東奥文化選奨受賞。歌曲やオラトリオに幅広いレパートリーをもちコンサートリストを多数務める他、2020/21年には「ディズニー・オーケストラ」全国ツアーに3シーズンにわたり参加する等幅広く活動している。2022年12月、エアファ・インバル指揮、東京都交響楽団「第九」、ジョナサン・ノット指揮、東京交響楽団「第九」に出演。二期会会員。



山下 牧子 ●アルト 広島大学を卒業後、東京芸術大学大学院に学ぶ。第1回東京音楽コンクール声楽部門1位、第72・73回日本音楽コンクール共に3位入賞。平成27年度よんでん芸術文化奨励賞受賞。2002年には日生劇場オペラ教室「カルメン」(タイトルロール)、2004年から、新国立劇場にて、マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」、ベルグ「ワグネルの結婚」、プッチーニ「蝶々夫人」、ビゼー「カルメン」、シュトラウス「サロメ」、ツインマーメン「軍人たち」、ヴェルディ「椿姫」「リゴレット」、コルンゴルド「死の都」、松村禎三「沈黙」、池辺晋一郎「鹿鳴館」等に出演。2005年には二期会の公演にも活躍の場を広げ、ヴェルディ「椿姫」、ヘンデル「ジュリアス・シーザー」、モーツァルト「コジファンツケテ」「イデメネオ」「ワグナー「トリスタンとイゾルデ」に出演。宗教曲や交響曲リストとしても活躍しており、国内主要オーケストラとベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、マーラー「復活」千人の交響曲等を共演。リサイタル等では、様々なスタイルや言語の歌曲を取り上げた意欲的なプログラムに取り組んでいる。二期会会員。



小林 由樹 ●バリトン 国立音楽大学卒業。日本音楽コンクール3年連続入選。イタリア声楽コンコロソ金賞。「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵役でオペラデビュー。その後、日本オペレッタ協会や東京オペラプロデュースの公演で舞台経験を積み、2004年からは新国立劇場にデビュー。「カルメン」エスカミーリオ、「椿姫」ドゥワール男爵、「蝶々夫人」ヤマトリ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」アルフィオ、「ぼらの騎士」ファエニナル役などを当り役に出演を重ね、ファビオ・ルイーゼを始め世界のマエストロと共演した。2017年からは二期会に所属し、ヴァイリー・デッカー演出「トリスタンとイゾルデ」「サロメ」、宮本亜門演出「金閣寺」「蝶々夫人」など、話題作への出演が続いている。コンサート歌手としてはバッハ「クリスマスオラトリオ」、ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」、オルフ「カルミナ・ブрана」などのバリトンソロを務める。これまでに藤巻信夫、田口興輔、渡辺誠、アッリーゴ・ポーラ、ジャンフランコ・バステネ、松本美和子の各氏に師事。二期会会員、日本音楽連盟会員。



諸岡 範澄 ●管弦楽音楽監督 国立音楽大学器楽科卒業。1993年ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル部門第一位受賞(Trio van Beethoven)。これまでバッハ・コレギウム・ジャパンを始め数多くの内外の演奏家との演奏会、CDレコーディングに参加。宗教曲、世俗曲を問わず声楽曲の通奏低音奏者としても豊かな経験を持つ。またモダン・チェロ奏者としても、室内楽等の分野で活躍する他、作曲も手掛ける。ピリオド楽器による「オーケストラ・シンボシオン」指揮者として古典派、ロマン派のCDをリリース。1999年「第13回古楽コンクール・山梨」審査員を務める。2007~08年には西東京市主催企画「ベートーヴェンの学校」(校長:西原 稔)音楽監督を努める。バロック・古典派にとどまらず、ロマン派から近・現代に至る幅広い指揮レパートリーを持ち、またプロ・アマを問わず奏者の自主性を引き出す指導力にも定評がある。「オーケストラ・Mizima」「東京五美術大学管弦楽団」「東京五美術大学 OBOG 管弦楽団」指揮者。「やまなしバッハアカデミー」講師。「オーケストラ・シンボシオン」音楽監督。自然をこよなく愛し、近年は昆虫写真家としても活動している。著書に「くらべてわかる甲虫」「くらべてわかるガ」(山と溪谷社・共著)がある。日本蝶類学会会員。



竹内 太郎 ●リュート 立教大学卒、ロンドンのギルドホール音楽院古楽科修了。イングリッシュコンサート、ベルリンフィル、レイチェル・ポツジャー、ナイジェル・クネディ、サイモン・ラトルなどと共演。ソロCDには「フォリアス!」「アフエットーソ」「可愛いナンシー」(読売新聞/朝日新聞推薦)などがあり、2019年には新譜「スコットランドのブルーベル」がリリースされる。古楽に関する論文/記事も多く、2018年にはオックスフォード大学出版のジャーナル「アーリーミュージック」に学術論文「Rediscovering the Regency lute」が掲載されている。ケンブリッジ大学リサーチグループ所属。英国リュート協会(LS)前理事。



市瀬 礼子 ●ヴィオラ・ダ・ガンバ 東京に生まれ、国立音楽大学 楽理学科在学中にガンバに出会う。神戸愉樹美、中野哲也の両氏に師事。英国王立音楽大学の奨学金を得て渡英、ガンバをリチャード・ブースビーに師事。現在まで、Academy of Ancient Music, English Baroque Soloists, Gabrieli Consort, Orchestra of Age of Enlightenment, Arte dei Suonatori といったヨーロッパ古楽界を代表するオーケストラにリストとして参加。また室内楽奏者として多大な信頼を置かれ、数多くのアンサンブルに所属、イギリスを代表する演奏家の一人として、ヨーロッパ各地で演奏、録音活動を行っている。王立音楽大学、viola da gamba 教授。ロンドン在住。



菅 哲也 ●オルガン・チェンバロ 国立音楽大学器楽学科オルガン専攻を卒業。同大学院音楽研究科修士課程を修了後、ドイツ学術交流会(DAAD)給費留学生として渡独。ドイツ国立ケルン音楽大学を卒業。これまでに日本及びヨーロッパ各地で演奏、録音を行っている他、オーケストラ、合唱団との共演、通奏低音奏者としてバロックアンサンブルへの参加も多い。現在、国際基督教大学主任オルガニスト。同大学教養学部及び宗教音楽センター講師。国立音楽大学オルガン科講師。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所講師。

国分寺チェンバークワイア ●合唱 1991年創立。ルネサンス・バロック期の音楽を主なレパートリーとし、少人数で「命あふれるア・カペラの響き」を追求して研鑽を積んでいる。1992年より「バッハの四季」シリーズを開催、教会暦によるバッハ連続演奏を目指す。2006年4月に創立15周年記念演奏会、また2012年1月に創立20周年記念演奏会をともに紀尾井ホールにて開催、好評を博す。2016年11月、小金井 宮地楽器ホールにて創立25周年記念演奏会「バッハ「口短調ミサ曲」を、また2018年12月にはバッハ「クリスマスオラトリオ」を演奏、絶賛を得る。昨年11月、三鷹市芸術文化センター風のホールにて 創立30周年記念公演「ブラムス「ドイツ・レクイエム」を演奏、大好評を得て、また新たな一歩を踏み出している。



- ソプラノ 庄司由美子・菅本高代・高橋明美・高橋純子・玉木千里・津吹陽子・富田桂子・中田裕子・成井木綿子・星野佳代子・本山奈緒子
- アルト 入江早由美・岡村春恵・柏木美紀子・砂田寿子・立川政子・中重久子・森迫邦江・矢形純子
- テノール 雨宮史朗・大場智夫・亀井一男・佐々木恭之助・星野 誠・門司常宏
- バス 阿部利興・池田 彰・久保田滋人・駒井義明・清水 茂・富山和照・中田圭一・中村誠一・長山 宏

†お詫びとお知らせ†

2022年10月30日に開催を予定しておりました国分寺チェンバークワイア秋公演「バッハからの遺産」は、2023年5月6日に延期して開催いたしますのでご了承ください。